

鐵の窓より

鐵鎖もてつながれたるは勞働者

つながは誰ぞ 組織の皮肉さ

つながれて獄舎に行くは勞働者

彼には家も×も無いのだ

北國の獄舎に今日は呻吟す
俺の思想よ 社會組織よ

つながれし鎖が鳴るよ

征服の事實を呪ふ鎖が鳴るよ

工場より今日は獄舎に送らるゝ

労働階級の悲痛な生活

生産者の俺がつながる

消費者の奴がつなげり ×へ現代

××のただ一筋に生きて行け

俺は労働者ぞ 被征服者ぞ

呪ふべきわが生活よ 放浪し苦役の連鎖

××を思へり

監獄の赤き煉瓦の扉を見よ
征服××の偉大さを見よ

戦へよ 俺は無産者労働者
失ふものは鐵鑽ばかりだ

(上田監獄時代)

鐵窓より歌ふ

血に燃ゆるあゝ鐵窓の鶏頭花
眞實俺も血が欲しいのだ

血に燃ゆるあゝ鐵窓の鶏頭花
くちづけせんになし鐵窓

労働よ また放浪よ その間の俺の休息所よ

監獄の窓

高らかに今日も唄へり××歌

鐵の窓より 腹の底より

同じ國 同じ人種の労働者を×さんためぞ
汝がビストル

××の朝の色にもさも似たり

真赤き太陽 監獄の窓

監獄の窓より眺む秋の空 暗膽壯絶

××の先觸れ

監獄に見る夢々の不思議さよ

工場 of 街と俺の死骸と

北國の獄舎は暗し 夜な夜なの
目覺め物憂しサーベルの音

監獄に來てはじめてのその夢よ
吹雪に立てるバクーニンの顔

(栃木監獄時代)

石の牢屋より

捕へられ石の牢屋に投せらる
石より固くわが心あれ

叩かれて蹴られ 踏まれて 繋がれても
俺は叫ぶぞ ××××

牢獄の彼方の森にふくろ啼く
ふくろのごとく世をば呪へど

黙々と鐵窓の下に端坐せり

一九一九年の正月元旦

陰惨の長屋に生まる 暗黒の獄舎に繋がる

叫べ××

(熊本監獄時代)

労働者の歌

労働者は労働者故に××す 理論を止めろ

この現実を見る

血には血を 死には死をもて報ゆべし

戦闘労働者の唯一のモットー

無産者ぞ わけて戦闘労働者ぞ
怖ゆるものか ××法案

尊ぶはたゞ労働者の行動ぞ
インテリゲンチヤの理論を葬れ

葬れよ インテリゲンチヤを葬れよ
わけて日本のインテリゲンチヤを！

ラフェルを葬れ 靴工を尊べ
社会は工場ぞ 大なる工場ぞ

×× ×× ××なるかな 彼等に
吾等に××は正義ぞ

愛するは××にあらず どん底の
俺の生れし無産者階級

黙々と鐵窓の下に坐する夜の
その感激に今宵も生かしめ

かゝる日ぞ ×××を投げつけむ
馳せ行く馬車に身も投げつけむ

(兼鴨保養院時代)